

# 個人の学びを支える ユビキタス学習環境へ

2005.6. 27(月)

株式会社ベネッセコーポレーション

ベネッセ教育研究開発センター

モバイル事業研究開発グループ

# はじめに

## (1) 事業概要

**Benesseは、ラテン語の「bene=良く」と「esse=生きる」を組み合わせた造語  
⇒当社の企業理念を表す**

赤ちゃんからお年寄りまでを対象に、「教育」「語学」「生活」「福祉」の領域で、お客様の「良く生きる」を支援



### 教育事業グループ

- ・進研ゼミ  
(通信教育講座)
- ・進研模試

他

### W&Fカンパニー

- ・たまごクラブ
- ・ひよこクラブ
- ・ボンメルシィ!
- ・いぬのきもち 他

ツセコ

### シニアカンパニー

- ・くらら
- ・まどか
- ・グラニー/グランダ
- ・アリア 他  
(介護ホーム)

### 語学カンパニー

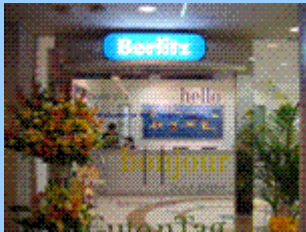
- ・Berlitz International, Inc.
- ・サイマルインターナショナル社

他

# 各事業におけるNO.1

## 【語学カンパニー:16.1%】

- ベルリッツ語学センター数:518拠点  
⇒世界最大規模(03年12月)



品川  
ランゲージ  
センター

- 介護付き高齢者向け  
ホーム数:73拠点  
⇒国内民間最大(04年3月)



くらら芦花公園

## 【シニアカンパニー:7.8%】

## 【教育事業グループ:63.0%】

- 進研ゼミ会員数:401万人  
⇒対象生徒数の約20%(05年4月)
- 取引高校数:4,238校  
⇒全高校数の約78%(04年3月)



中学講座



こどもちゃれんじ

- 「たまひよ」発行部数  
:82万部(04年3月)



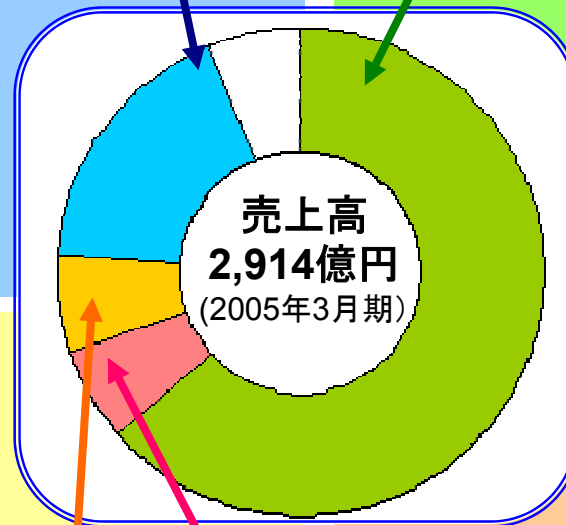
- 「いぬのきもち」会員数  
:15万人(04年3月)



「たまひよ」

- 「ベネッセウィメンズパーク」会員数  
:36.5万人(04年3月)

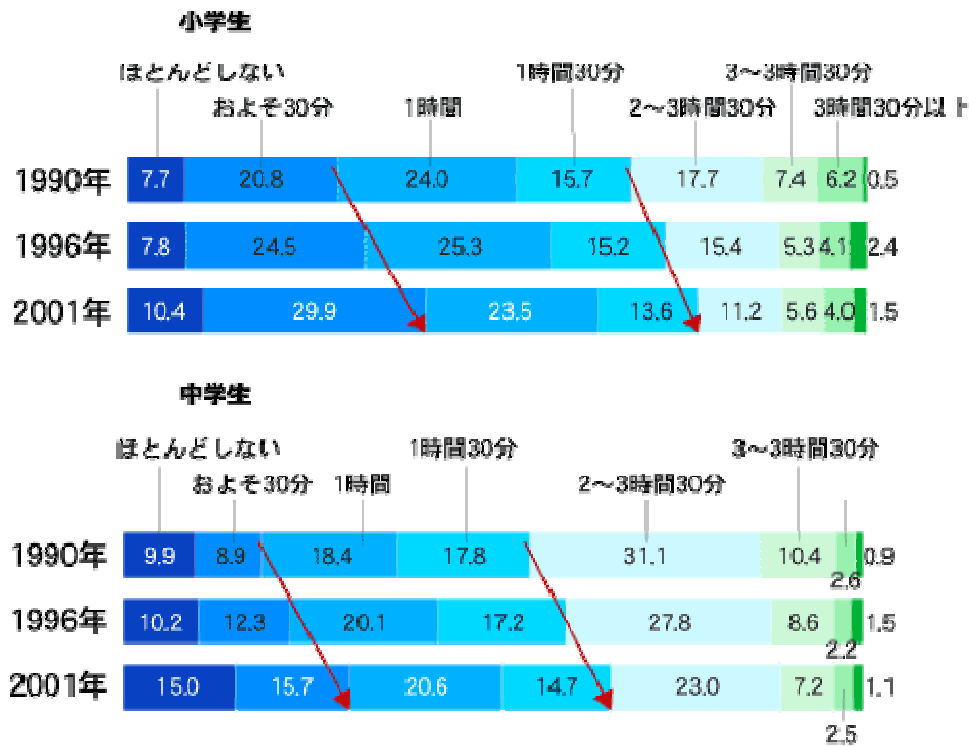
## 【W&Fカンパニー:6.3%】



## (2) 家庭学習の現状

# 勉強しなくなった子供たち

平日の学校での授業以外の1日に勉強する時間(塾、家庭教師含む)は減少し続けている。

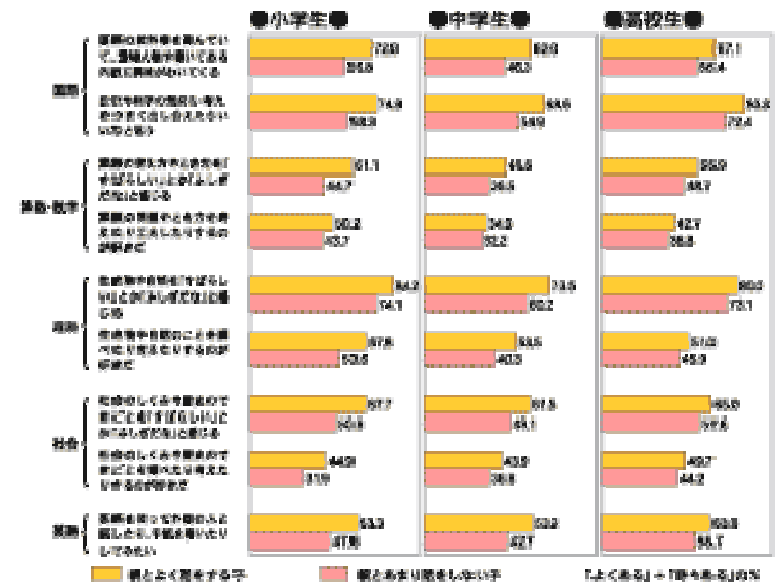


※高校生もほぼ同様の傾向

# (3) 家庭学習における今の子どもたちの課題

- ①学習自体に意味を感じられない
- ②(意味を感じないので)学習を始められない
- ③(始めても)長続きしない
  - ・集中出来ない
- ④一緒に頑張る仲間がいない。
- ⑤デジタル学習:取り組みまでの物理的・心的ハードル高い。

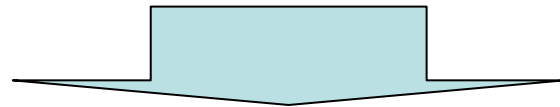
保護者との会話量が  
学習に対する意欲・  
関心度に影響する。



## (4) 進研ゼミでの課題解決アプローチ

- ① 子供たちの目線で
- ② 楽しく勉強できる工夫をこらし
- ③ 一人ひとりを見つめ・認め
- ④ 学力向上に向けてとことん支援・サポート

子どもたちに揺るぎない知識と明日を切り拓く力を伝えたい。



更なる個別化/顧客満足度向上への挑戦  
～ 紙メディアでの実現レベルを超えて ～

# 1. 現在の関連活動

## (1) ユビキタスラーニングでの課題解決アプローチ

携帯性や感覚的効力感といったモバイルメディアならではの特性を活かし「学び」と「学習者」との距離を縮める。

### ① 携帯性

いつでも どこでも

ネットワークによる双方向 PUSH⇔リアクション

### ② 感覚的効力感

気軽さ 没入感 持っているだけでうれしい

## (2) サービス事例

### ① ポケットチャレンジ(1995年～)

# 目と耳と指で覚える電子学習ツール



- 中学生中心に教科書対応した授業テスト対策と受験対策商品
- 本体+ソフトを組み合わせて利用
- ソフト・ハードともベネッセオリジナル制作
- 95年の発売以来、

**ハード累計出荷数 106万台**

株式会社ベネッセコーポレーション

## <特徴>

進研ゼミ教材の内容と使い勝手

+

- ・覚えやすく忘れにくい繰り返し学習  
(定着力・習熟力が違う)
- ・楽しくサクサク勉強できる仕組み







## 2. 見えてきた課題（携帯コンテンツ開発）

### （1）短期課題

#### ①コスト面

- ・制作時の手間が大きい（BREW対応工数など）
- ・学べば学ぶほどお金がかかる（パケット代。高校生は敏感）

#### ②ビジネスモデル

無料提供でさえパケット代を気にして利用に二の足を踏まれているケースも多々あり。（投下コストに対するベネフィットをどう捉えるか）

#### ③利用者教育

携帯での学習スタイルに対して、保護者の理解を得ていく必要がある。

#### ④継続性

最適なタイミングや利用シーンを見据えた活用促進は不可欠。

## (2) 長期課題

ユビキタスラーニング環境の提供は、既存の学習に対する補完的な位置付けとして有効性が見えつつある。



今後、モバイルラーニングの本格的な普及に向けて、取り組みべき課題は多い。

- ①紙媒体を中心とした既存教材との更なる連携強化
- ②学校教育での活用
- ③家庭における親子コミュニケーションでの活用
- ④産官学が連携した推進体制/インフラの整備
- ⑤(各キャリア間の標準化が困難なため)多様なプラットフォームへの迅速な対応

### 3. 展望

～ユビキタスラーニング普及に向けて～

提案1：学校と親子を結びつける  
実証実験環境の構築

提案2：モバイルラーニング推進  
給付金の設立

⇒ 詳細は次回協議会にて